

記
録

「かたり」が
生まれる場を
つくる実践











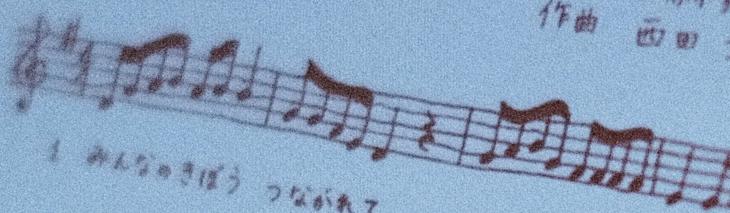






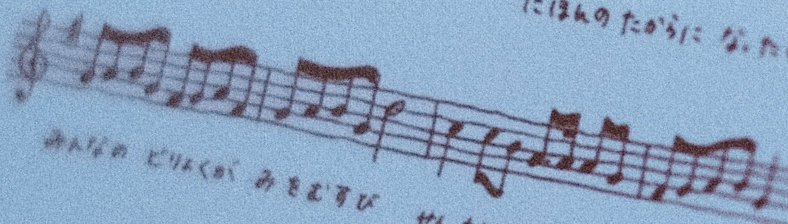
首羅山 いつまでも

作詞 久原小舟
作曲 西田 功



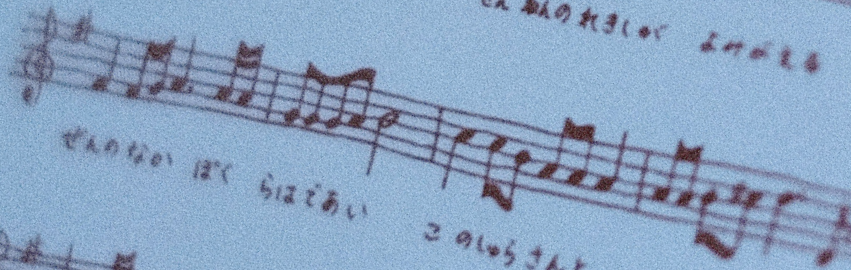
1 みんなのきぼう つながれて

にほんのたのしみになつた



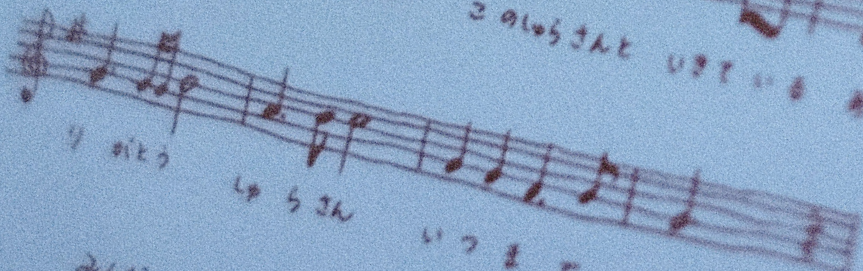
みんなの じりくが みきびすび

せん ねんのれきしが よみがえる



せんのがい ばく らはごあい

このしらさんと ひまをいふ



り のとう

しらさん

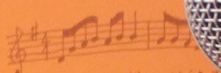
いつまでも

みんなの希望つながれて
日本の宝になった今
みんなの努力が実をみすび
千年の歴史がよみがえる
自然の中 ばくらは出会う
この首羅山

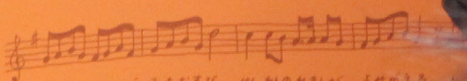
魂やどる廣摩道
きれいにするよ 首羅山神社
かならず みんなで 首羅山神社
伝統つないで



首羅山 いつまで



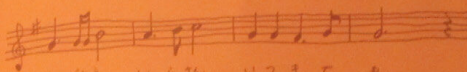
みんなの希望 つながれて



みんなの びらくが みまもり ぜん 山の救きが 未来がえる



ぜんのが ぼく らはあい このしらさんと いきて いる あ



り ありがとう しらさん いつまで も

みんなの希望 つながれて
日本の空になった今
みんなの努力が実を結び
千年の歴史がよみがえる
自然の中 ぼくらは出会い
この首羅山と生きている
ありがとう首羅山
いつまでも

魂やどる藤原塔
きれいにするよ 白山神社
かなうぞ みんなと肩かけあい
伝統つないで 守りぬく
久山町を見下ろして
この首羅山は生きている
いざ進め 首羅山
いつまでも





手をはたらかせながら、 かたりこう



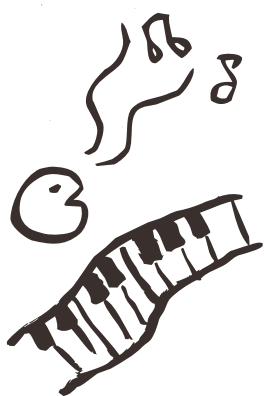
わたしたちが生み出したい「かたり」はどのようなものか。本をつくるといっても、机に向かうだけではそれを見つけることはできません。そのため、まずはわたしたちが集まり、言葉を交わし、ときには火や飲食を囲んだり、稲穂を運んだり、縄を編むことを教わったりと、さまざまな活動を重ねてきました。

不思議と、手をはたらかせながら生まれる「かたり」は、話題が道草をしながら、深まったり広がったりしていきます。思わず出てくる昔の話や未来の話。そういった時間が「かたりぐさ」を豊かにしていくように感じられました。

「わたしたちの
首羅山ものがたり」
を読み継ぎ、唄おう



「かたりぐさ」を巡って本をつくる過程のなかで、人と出会い、心も、からだも、あたかも動かしていく。その一環として、音楽会も開催しました。そこでは、歴史絵本「わたしたちの首羅山ものがたり」の読み語りや、首羅山にまつわるオリジナルソングの合唱も。歴史や文化が今を生きるものになる経験も重ねていきました。



🌸 久山じちっぱプロジェクト

町制70周年記念誌制作を機に誕生したプロジェクト。久山で育ち暮らす若者たちを中心にしながら、世代を越えて雑談や会話や対話を育む場づくりを進める。音楽会では、歴史絵本「わたしたちの首羅山ものがたり」の読み語りや歌も披露しました。「じちっぱ」とは、自治と原っぱをかけ合わせた造語です。

https://www.instagram.com/hisayama_jichippa/

🍵 音楽会

記念誌制作に先立って、音楽家の角銅真実さんをお迎えし、2026年4月12日(日)に久山中学校図書館を舞台に音楽会を開催。

かくどう まなみ



この図書館は生徒のアイデアも取り入れられてリニューアルされ、不定期に地域に開放されています。当日は、音楽室から楽器をお借りしました。卒業生も集まる機会に、じちっぴプロジェクトのメンバーによる中学校校歌斉唱も披露されました。

久山中学校図書館

久山中学校の図書館は、生徒のアイデアも取り入れながらリニューアルされ、2025年3月にオープンしました。受験を控える秋から冬にかけては、毎週末「受験生応援ルーム」として開放され、生徒が不定期に「ももたろう・カフェ」も運営しています。生徒だけでなく、卒業生や地域住民も利用できる場となりました。現在の校舎が建てられて約50年。卒業生にとっては、母校を懐かしみ、再び足を運ぶきっかけにもなっています。読書や学習の場として親しまれてきた図書館は、人との出会いや学びが広がる場所として、新たな役割を担い始めています。

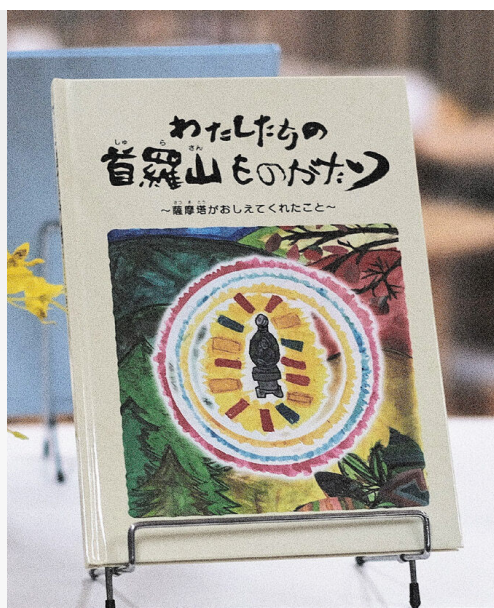


○歴史絵本「わたしたちの首羅山ものがたり」

久山町では、幼い頃から絵本に親しむ時間が大切にされてきました。幼稚園や保育園、小学校、中学校では、町内の読み聞かせボランティア団体による朝の読み聞かせが定期的に行われています。物語を読むだけでなく、伝えることも身近な文化として受け継がれてきた中で、地元の小学生が地域の歴史を絵本にする取り組みも続けられています。音楽会では、久原小学校・山田小学校の当時の6年生が制作し、2015年に発行された首羅山を巡る物語に注目しました。今も調査が続く国史跡首羅山遺跡は、国際色豊かな福岡の中世の姿を今に伝える貴重な遺跡です。絵本では、山に残る薩摩塔（さつまとう）が虎に乗ってやってきた神様のことを語り始めるところから物語が展開します。音楽会では、伴奏付きの読み語りに挑戦しました。

歴史絵本

久山町では、2015年に久原小学校と山田小学校の6年生が共同制作した『わたしたちの首羅山ものがたり』を皮切りに、地域の歴史を題材にした絵本づくりが続けられています。歴史を調べ、





物語を考え、挿絵を描く。そのすべてを子どもたち自身の力で進めます。2021年からは、山田小学校の6年生が制作を担っています。これまでに、齋宮や伊野天照皇大神宮、健診事業などが題材となり、制作した絵本は、小学校1年生の入学祝い品として贈られています。さらに2023年からは、久山中学校の有志生徒による英訳版の制作も始まりました。絵本は、表紙を硬い仕様にするにもこだわって制作されています。制作した絵本は、地域の歴史を語り継ぐだけでなく、「自分たちが作った絵本」として、制作に携わった子どもたちにとっても心に残る一冊となっています。これまでに制作された絵本は、久山町ホームページで読むことができます。



国史跡首羅山遺跡

首羅山遺跡は、中世に白山の山中で営まれた山林寺院の跡です。白山神社の社が現在地へ移された後も、地域の人々は山頂のほくらへの参拝を続け、この場所を大切に守り伝えてきました。地元には古くから首羅山にまつわる言い伝えがあり、山中に薩摩塔や土器が残ることも知られていました。2003年に町による調査が行われ、山中に陶磁器や瓦、石垣などが数多く残されていることが明らかになりました。2005年から本格的な発掘調査が始まり、中国や朝鮮半島との交流を示す陶磁器や石造物などが出土し、国際色豊かな中世の様子を伝える重要な山林寺院跡であることが分かりました。こうした学



角銅真実（音楽家、打楽器奏者）

長崎県の山と川に囲まれ育ったという角銅さん。マリンバをはじめとする様々な打楽器、ギター、ピアノ、自身の声、言葉、さまざまな身の回りのものを用いて、楽曲制作やパフォーマンスなど自由な表現活動を展開しています。音楽会の開催にあたっては、制作メンバーと語らう時間も大切にし、そこでの会話から、様々なアイデアが生まれました。巻末に記載されていた楽譜を活かして「わたしたちの首羅山ものがたり」のオリジナルソングや久山中学校の校歌を合唱する機会が実現したのもその一つです。写真は、猪野川にて。

術的価値が認められ、2013年には国史跡に指定されました。現在も調査が続けられており、町の子どもたちや地域の方々をはじめ、多くの人が遺跡の保存や活用に関わっています。また、建設工事が進められている首羅山遺跡ガイダンス施設を通して、これまでの調査成果や地域の活動が広く伝わり、さらなる学びや交流へとつながっていくことが期待されます。